

第5学年 総合的な学習の時間学習指導案

指導者 橋本市立あやの台小学校

教諭 米山 真寿

1. 単元名 「エコマート～地球を支える会社をつくろう～」

2. 単元目標

- ・環境問題を解決するためにどんな方法があるか理解する。(知・技)
- ・環境問題を解決するために自分たちにどんなことができるかを考え、できることをしようとする。
(思・判・表)
- ・地球で暮らす自分たちが環境を作るという意識を持ち、よりよい未来の作ろうと行動しようとする
ことができる。(主学)

3. 単元について

(1) 教材観

本単元は、SDGsの「11 住み続けられるまちづくりを」「12 つくる責任 つかう責任」をターゲットとしている。本単元では、地球で暮らす自分たちが環境をつくるという意識を持ち、「地球を守るために自分たちにもできることをしよう」と、環境に配慮した商品づくりを通して、児童が環境にやさしい活動(以下、エコ)を実践していく。商品の販売活動を通して得た利益は、環境保護団体に寄付することで、環境保護に役立てていく。

また、販売活動を通して自分たちの活動を発信し、知ってもらうことで、自分たちだけでなく他の人々も「一人一人が環境に配慮した生活をしなければならない」という環境保護の啓発になると考えられる。

環境学習を知識・理解だけに留めるのではなく、自らエコを実践し、社会にも啓発していくことで、児童が自身の生活を改める本当の価値として根付くことが期待できる教材である。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまで環境問題について学習し、現在の地球が危機に瀕していることを知った。校外学習でも、花王の工場見学を行い、企業も利潤目的だけでなく、環境に配慮したさまざまな取組を行っていることを知った。児童はそれらの学習を通して、「自分たちの暮らしは便利だが、地球には生活に困っている人がたくさんいる」「便利に暮らしている人が特に地球環境に悪いダメージを与えている」「自分たちにでもできることはある」ということを学んできた。しかし、子どもたちは単純に「便利な生活をやめればいい」と考えがちである。また、学習としての知識・理解に留まり、自らの生活の在り方を変えるまでの価値に至っていない。

(3) 指導観

商品づくりについてはグループごとに会社を設立して行う。会社の活動・運営については、児童の主体的な活動になることをねらいとし、各会社の社長が中心となって進め、教師や講師はその支援を行う。商品づくり、販売活動に向けて、仲間と協力することで大きな力が発揮できることを感じられるように指導を進めたい。最後には販売活動で得た利益を寄付することで「世界のために何かすることができた」という達成感を感じられるようにしたい。

また、これまで環境に配慮して活動してきた自分たちの取組について、何をどう発信することが大切なのかを考えさせる中で、自分たちの活動の意義を再確認すること、アウトプットし

た内容についても責任を感じ、児童が自身の生活の在り方を考えられるようにしたい。

(4) ESD との関連

・学習を通して主に養いたい ESD の視点

【有限性・循環性】：商品づくりを通して、地球資源の有限性に気づくことができる。また、使わなくなったものでも工夫することで再使用できることに気づくことで循環性を意識させることができる。

【公平性】：啓発活動を通して、現世代の豊かな生活と次世代の豊かな生活が両立できるよう世代間の公平性を考えることができる。

【連携性】：会社活動を通して、よりよい在り方を見出し、協働することで連携性が身に付く。また、啓発活動を通して、自分たちだけでなく、他社も含め地球に暮らす一人一人が地球環境に配慮した行動が大切であると気づくことで連携性が身に付く。

【責任性】：活動を通して、地球で暮らす自分たちが環境を作る主体ということを実感させることで責任性の重要性を理解することができる。

・学習を通して主に育てたい ESD の資質・能力

②システムズシンキング（多面的・総合的考思考力）

販売活動を通して、エコの大切さをより多くの人に伝えられるように意識し、エネルギー・ごみ・利益・買い手などを多面的・総合的に考えながら、商品開発を行うことができる。

③長期的思考力

活動全体の見通しをもち、目標を見据え、計画的に活動を進めることができる。

⑤協働的問題解決力

会社活動を通して、よりよい在り方を考え、行動することで協働的問題解決力がつく。

4. 評価基準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①環境問題を解決するためにどんな方法があるか理解する。	①環境に配慮した商品づくりを行うことができる。 ②環境学習で学んだことやエコマートの意義について、表現することができる。	①地球で暮らす自分たちが環境を作るという意識を持ち、よりよい未来を作ろうとしている。 ②よりよい会社活動にするために、友達と協働することができる。

5. 単元展開の概要

全25時間

主な学習活動	学習への支援	◇評価 ・備考
1 会社をつくろう	6年生の昨年の取組について聞く場を設定し、イメージをもたせる。	◇よりよい会社活動にするために、友達と協働することができる。(主学②)
2～3 活動計画計画を立てる	期日を設定し、児童が逆算して計画を立てられるようにする。	◇地球で暮らす自分たちが環境作るという意識を持ち、よりよ未来を作ろうとしている。 (主学①)
4～12 商品づくりをしよう	商品づくりのアイデアは環境へ配慮、使いやすさ、コストパフォーマンス、デザインなど様々な視で考えさせるようにする。また商品のつくり方についての知識技術的支援を行う。	◇環境問題を解決するためにどんな方法があるか理解する。 (知・技①) ◇環境に配慮した商品づくりを行うことができる。 (思・判・表①)
13～14 エコマートを開こう (販売・啓発)	販売活動が円滑に行えるよう支援する。	◇環境学習で学んだことやエコマートの意義について、表現することができる。 (思・判・表②)
15～16 反省会をしよう	販売活動から会社活動・商品づくりの2面から反省を行い、次の販売活動に向けての方向性を定められるように助言する。	◇よりよい会社活動にするために、友達と協働することができる。(主学②)
17～22 商品づくりをしよう	商品のつくり方についての知識技術的支援を行う。	◇環境問題を解決するためにどんな方法があるか理解する。 (知・技①) ◇環境に配慮した商品づくりを行うことができる。 (思・判・表①)

<p>23 エコマートを開こう (販売・啓発)</p>	<p>販売活動が円滑に行えるよう支援する。</p>	<p>◇環境学習で学んだことやエコマートの意義について、表現することができる。 (思・判・表②)</p>
<p>24～25 ふりかえろう</p>	<p>利益を寄付することで「世界のために何かすることができた」という達成感を感じられるようにしたい。また、一生懸命取り組んだことをほめることで児童が喜びを感じ、活動したことが知識だけの獲得になるのではなく生活レベルでの変容になるようにしたい。</p>	<p>◇地球で暮らす自分たちが環境を作るという意識を持ち、よりよい未来を作ろうとしている。(主学①)</p>